

指扇小だより

学校の教育目標 **やり抜く子の育成**

かしこく やさしく たくましく あたたかく

1月号 令和5年1月6日 第9号

さいたま市立指扇小学校

〒331-0078

さいたま市西区西大宮1丁目49-6

電話 048-623-0133 FAX048-624-2200

【児童数】男子 429名 女子 443名 計 872名

新年の気を纏う ～夢や目標に向かって～

校長 引間 陽子

令和5年の幕開け。窓から遠く初日の出を拝み、刻々と勢いよく太陽が昇ってくるのを眺めました。我々を励ますかのような太陽のエネルギーを感じ、本年もよい年になりますようにと願いました。また、お正月の街に出かけた折には、すっかり葉の落ちた街路樹の木立と空一面に冴え渡る青に空気までが新鮮に感じて、凛とした気持ちになりました。

年末年始に昔の本の記録メモをめくっていたところ、纏う（まとう）という言葉を見つけ、気に入った言葉の一つだと懐かしく思いました。

纏うは「①身に付ける ②巻き付く」という意味ですが、著名な文学者の執筆にも現れます。夏目漱石氏の文学作品にも、数々表現されています。



2023 初日の出

まとう
◇◇◇ 纏う ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

・ ・ ・ 絹帽を潰したような帽子を被って美術学校の生徒のような服を纏うている、 ・ ・ ・

夏目漱石『倫敦塔』

・ ・ ・ 玉を並べた様な銚の一つを半ば潰して、ゴーゴン・メジューサに似た夜叉の耳のあたりを纏う蛇の頭を叩いて ・ ・ ・

夏目漱石『幻影の盾』

・ 手頸を纏う黄金の腕輪がきらりと輝くときランスロットの瞳はわれ知らず動いた。「さればこそ」と女は繰り返す ・ ・ ・

夏目漱石『薙露行』

・ ・ ・ 極の野蛮時代で人のお世話には全くならず、自分で身に纏うものを捜し出し、自分で井戸を掘って水を飲み、また自分で木の实か何かを拾って食って ・ ・ ・

夏目漱石『道楽と職業』

新年の節目には、何か特段に、気を纏えるように思います。日本は四季折々の節目があるお国柄であるせいか、一つ一つの節目には人をプラスに変える空気、雰囲気をはじめ、気の力が働くのではないかと感じさせることがあります。自分と向き合い、自分を変えていくというのはなかなか難儀なものですが、自分を振り立たせるには、節目はチャンスの一つではないでしょうか。兎にも角にも卯年ですから、子どもたちには夢や目標に向かってチャレンジして、ピョンと飛躍することを期待しています。

本日から子どもたちと教職員がエネルギーチャージを完了して、元気に3学期を迎えました。今学期は、第6学年の子どもたちは卒業へ向けて大切なステージになります。下級生の子どもたちも進級への大切な時期です。高みを目指し大きく前進できるよう、教職員一同、力を合わせて指導してまいります。本年も、何卒よろしくお願いいたします。